



受けた次は世界に返そう

邦人宣教レポート #89 ボニータ日系聖書教会

1/1995～07/2011 中村敬宇 Rev. Takao Nakamura Email:ng

人は自分の考えるように人生を辿り、自分が考えている結果を刈り取るそうです。さらに、人は他人にしたように自分も受け、心から人に接することで、自分も同じように接してもらえます。すなわち人は他人に接する仕方に比例して同じ扱いを受けます。

ですから「私」は、「私たち」を通して初めて成長すると言われる所以です。それで「私」の人格的成長等は、「私たち」の群れの中に混じる事で促されて発展して行くものです。

既成教会に派遣された若き牧師は、直に一信徒から牧師先生と呼ばれ、指導する側に立ちます。其の責任感を意識すればするほど、力み過ぎて群れから離れ、願いとは裏腹に孤立し易いのです。やはり同じく「牧師」は「牧師たち」を通して成長し、良き先輩牧師たちに接して養われるのです。他方、教会には人生の先輩諸姉兄が居ますので、「彼ら」を通して人生の訓育を受けて成熟する事も出来ます。

イエス様の例ですが、選んだ12人を三年間そばに置き、宣教に遣わし、霊的な権威を授けられました。

「そこでイエスは十二弟子を任命された。それは、彼らを身近に置き、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。」マルコ3:14-15

三年間傍に置き寝食行動を共にすることで、弟子達はイエス様から体験的に学びました。残念ながら、今日には、そのような訓練環境は見当たりません。神学校では知識は増えても人格接触はそれ程親密ではなく、師弟の感化力までには発展しません。今日の弟子は何処で生まれるのでしょうか。賢明な人なら新人を先輩と組み合わせ、熟練者から学ばせるでしょう。これは世の道理です。

できれば若い牧師が、毎月の報告義務を伴う指導者として先輩牧師を持つ事が出来れば、同じ教会であってもなくても訓練と指導を受ける事が可能です。報告で自分の実情や力量をさらけ出して先輩から評価を受けます。厳しい評価があってはじめて気付きと工夫と成長が生まれます。

実際には牧師の報告義務がない教会では、新人としての戸惑いと時間の浪費だけがあります。本人

の成長がないまま、教会も停滞、悪しくは後退します。牧師が報告義務を嫌うなら人格的な欠落があり、先輩に従えない者は自分の殻さえ破れないで、当然指導者にも向きません。そして足踏みが続きます。

第一に「牧師」が「牧師達」を通して、第二に「牧師」が「信徒達」を通して、成長するものです。牧師は教会によって育てられるとは、このようなことを指します。当然、牧師の成長は教会の喜びであり、其の為には信徒も協力を惜しみません。

さて牧師は広く先輩牧師達の中に飛び込んで行く事が大切です。牧師は、牧師達によって砥がれるのです(箴言27:17)。

退職された先輩牧師から牧会とか霊性や品格面で訓練を受ける事は沢山あります。私の場合は若年の時からその様な牧師仲間恵まれ、それが大きな資産となっています。

さて、忠実な信徒が教会から去っていく事例も起こります。そしてそれを止めるべきは牧師でしょう。何故ならその原因の殆どは牧師の未熟さや親交の不足です。霊的に養われない、成長や喜びがない、大きくは生涯を賭けるほどのビジョンが教会にないなどの理由とか、牧師と一緒に何かをする霊的経験の喜びに欠けるからです。

誰でも牧師の指導下で確実に成長して行く喜びを実感したいのです。しかし、牧師との親交や、ビジョンの共有がなく、ただ教会の組織面では重宝され、献金だけを求められるだけなら、裏切られた感じがして教会を去る準備を始めるでしょう。

若い牧師は自分の力量に早く気付く事です。不足している所を先輩や信徒に助けてもらうのです。自分独りで頑張る事は教会の前進を停滞させるだけで、自己像の認識が甘く、自分自身の成長度が判らないままなのです。

自分を掴めないと相手を掴む事もおろか、相手の長所を活かす道も見えてきません。自分を客観的に知る時、他人のニーズにも気付きます。早く大人になる為に先輩諸氏から学んで欲しいものです。

若い牧師方よ、祈っています。中村敬宇